



企画にあたって

大野洋平（東海大学医学部内科学系循環器内科 准教授）

近年、弁膜症の診断・治療は目覚ましい進歩を遂げ、特に高齢化社会においてその重要性が増しています。本特集「ALL about 弁膜症：重症患者への最適治療を探る！」では、弁膜症診療の基礎から最新知見までを幅広く網羅し、読者に実臨床ですぐに活用できる実践的内容と致しました。特に、経カテーテル的大動脈弁留置術（transcatheter aortic valve implantation：TAVI）や経皮的僧帽弁接合不全修復術（mitral transcatheter edge-to-edge repair：M-TEER）などの、もはや日常臨床になくてはならない治療オプションのほか、近いうち保険償還が見込まれている三尖弁閉鎖不全症（tricuspid regurgitation：TR）に対するTEERなど、われわれの日常臨床にインパクトを与えるものを数多く取り上げました。なかでもTAVI治療においては、徐々に低リスク、やや若年患者に対しての治療選択肢ともなっており、長期フォローにより初めてわかってきたこと、人工弁の耐久性や機能不全の際の再治療戦略などを充実させました。また、2025年8月末に開催されたヨーロッパ心臓病学会ESC2025にて新しい弁膜症ガイドラインが改訂されました。本特集では、その内容もいち早く反映しています。

本特集が、循環器内科医、心臓血管外科医、イメージング医、ハートチームに関わる多くのメディカルスタッフすべてにとってマストな実践的ガイドとなることを願っております。